

東北AA草創期メンバーによる魂の記憶

宮城編

双葉編

山形編

AAが

東北に来た頃の

あれこれ

Alcoholics

Anonymous®

Alcoholics Anonymous[®]

アルコールリクス・アノニマス[®]

AA Preamble AAの序文

アルコールリクス・アノニマス[®]は、経験と力と希望を分かち合っ
て共通する問題を解決し、ほかの人たちもアルコールリズムから回復する
ように手助けしたいという共同体である。

・AAのメンバーになるために必要なことはただ一つ、飲酒をやめたいという願
いだけである。会費もないし、料金を払う必要もない。私たちは自分たちの
献金だけで自立している。

・AAはどのような宗教、宗派、政党、組織、団体にも縛られていない。また、ど
のような論争や運動にも参加せず、支持も反対もしない。

・私たちの本来の目的は、飲まないで生きていくことであり、ほかのアルコール
リクスも飲まない生き方を達成するように手助けすることである。

(A. A. グレープバイン社の許可のもとに再録)



Alcoholics Anonymous[®]

AAが東北に来た頃のおれこれ

東北AA草創期メンバーによる魂の記憶

— 宮城編 双葉編 山形編 —

目次

まえがき 6

AAが宮城に来た頃のあれこれ 9

AAみなみグループ こうじ

日 時 平成二十五年十一月二十四日(日)
取材場所 宮城県仙台市八本松市民センター

AAが双葉に来た頃のあれこれ 21

AAメンバー かおる

日 時 平成二十六年二月二日(日)
取材場所 福島県南相馬市情報交流センター

AAが山形に来た頃のあれこれ 33

AA山形グループ ロン

日 時 平成二十六年九月十四日(日)
取材場所 山形県山形市総合福祉センター

あとがき 54

まえがき

本小冊子は、東北セントラルオフィスが毎月発行しているミーティングリスト『A A東北見聞録』二〇一四年一月号より二〇一六年五月号まで掲載した連載記事「A Aが東北にきた頃」の宮城・双葉・山形の三編を再構成したものです。

A Aの回復のメッセージが東北に届いてから三十数年になります。連載記事「A Aが東北にきた頃のあれこれ」はA Aが東北各地にやってきた頃の様子を、当時を知る仲間たちのお話を紙面で分かち合い、苦勞を乗り越えた先には希望の光があるのだということを、A Aメンバーと、まだA Aにたどり着いていない仲間達と共有しようと企画しました。

宮城編のインタビューは、ミーティング会場の待合室で行い、次々と紡ぎ出される当時のエピソードに、たくさんの驚きと感銘を受けました。（福島県）双葉編のインタビューは、今なお東日本大震災の傷跡深い南相馬で行い、私たちが今どうしてA Aの恩恵を受けられるのか、改めて確認できました。山形編のインタビューは、新しいインタビューアールも加え、フレッシュな質問と、重ねていくソーパーの経験が交差した取材となりました。様々なシーンが思い起こされます。

毎月発行している『A A東北見聞録』は、東北六県のA Aミーティングリストに、読み物ページを併せたものとしています。東北でのA Aの歩みとともに、イベントなどの情報も含めたミーティングリストが、その時点その時点の仲間たちによって、工夫を重ねながら発行が継続されてきました。また、「紙上での分かち合い」である機関紙も、『東北見聞録』や他の名称で、形態を変えながらも発行されてきています。平成二十三年の東日本大震災後、それらの役割を引き継いだメンバーたちが、これら二つを併せたものとして現在に至る形態を整え、継続して編集・発行させていただいています。

もちろん、東北各地でそれぞれにA Aのメッセージを運び続けているグループより寄せられるミーティング開催情報、回復・成長していくアルコールホリックが分かち合う経験、なによりも、グループ、メンバー、ご家族、そして「A Aのよき友人」でいらっしやる関係者・関係機関の皆さまのご協力を得られて初めて、『A A東北見聞録』の継続があります。あらためて感謝いたします。今後とも、まだ苦しんでいるアルコールホリックのため、ご家族、関係者・関係機関の方々に活用していただけるよう、お願いいたします。

貴重な経験の分かち合いを拙い編集で損ねていることがあれば、一重に編集者の責任です。しかし、これらの「経験と力と希望」のメッセージが、皆さまに分かち合われ、お役に立てることがあれば、編集委員一同これに増す幸せはありません。

平成二十八年八月 編集者一同より

まだ出会っていない仲間達へ

そしてすべてのAAAメンバーへ・・・

愛と喜びと希望に満ちた

私たちのメッセージを届けます・・・

「AAが宮城に来た頃のあれこれ」

AAみなみG こうじ

※インタビュー内容はAAメンバー個人の意見です。AA全体を代表したものでも、グループを代表したものでもありません。時系列等も個人の記憶ですので、前後する場合がありますがご了承下さい。

「今日はお忙しい中、AA東北見聞録のインタビューを受けていただきまして、ありがとうございます。今回は「AAが東北に来た頃のあれこれ」と題しまして、インタビューをさせていただきます。

それでは早速最初の質問に入りたいと思いますが、こうじさんが覚えている限り、AAが東北にやってきたのは現在から何年程前になるでしょうか？

こうじ

三十一、二年前だと思う。僕のソーバー(酒を飲まない時間)が三十年と半年位なんだと思うけど、それより一年前にAAが来てるんだよね。

東京から、まあ通称なんだけど「七人の侍」と言ってる、関東から七人のメンバーが来てくれたんだ。AA日本の初期メンバーだね。

日本版ビッグブッグの個人の物語を書いている人がメッセンジャーの中に二名はいた。日本で初めてAAメンバーになった二、三人目の人達。いわゆる日本のAA草創期の人達だよ。その頃で、その人達はソーバー十年位だと思う。だから、その二人のメンバーと他のメンバー五人で東北に来たんだ。

でも今話したことも、僕は人伝で聞いたことだから、正確じゃないところもあるかもしれないね。

なぜかという、僕は東北でAAが始まってから一年後にAAに繋がったんだ。だからそれ

以前に東北で一番初めにAAに繋がったメンバーから聞いた話だよ。そういう訳で、どんな交通手段で東北に来たとか、詳しい話は知らないけれど（笑）。とにかく7人のAAメンバーが東北にメッセージを運んでくれたんだね。

―なるほど、ということとは日本にAAができてから約四十三年ですから、AA日本の草創期から約十年ちよつとで東北にAAのメッセージが運ばれたということですね。

こうじ

そうなんだけど、実はその七人が来る前に、宮城のアルコール専門病棟（以下A病院）でAAが始まっていたらしいんだ。

A病院のケースワーカーが東京に行って、どうやらAAというのはアルコール依存症に効くらしいという情報を仕入れてきて、A病院で医者と院内のアルコールがビッグブックの読み合わせを始めたらしいんだ。それから、その仙台のアルコール二名が東京へAAを見に行つて仙台でAAを始めたんだね。

だから東北に来た東京のメンバー七人は、東北でAAが始まったということでフォローしに来てくれたんだと思う。で、東京の初期のメンバー二人は、仙台でイベントがあると長い期間来てくれてたよ。

―なるほど、前後する話もあるかもしれないということですが、大体そういう経緯でAAが東北に運ばれたんですね。とても興味深いお話です。ところで、当時仙台にあった初期のグループ名は覚えていますか？

こうじ

柏木グループじゃないかな、たぶん。僕がAAに来てからの話になるけど、会場は元寺小路教会、北仙台教会、西仙台教会。あと一本杉教会、今工事（当時）しているけどね。（いずれもカトリック教会）

考えてみると最初、A病院の院内でやってたのかな。で、やっぱり自立しなきゃということ

仲間が挨拶に行つて、一気にさつき言った会場を借りたんだね、がんばつて。

—その頃のミーティングでの苦労話とか、覚えていますか？

こうじ

メンバーが集まらない（笑）。まずどの会場のミーティングでも、集まるのは二〜五人くらいだったよ。

その頃昼夜ミーティングがあつただけど・・・一週間で十二回はあつた。日曜日にはなかつた初めの頃はね。

昼のミーティングは十四時から十五時半。夜は多分十八時半から二十時の間にやつてたかな、定かではないけど（笑）。

それが毎日だったね。朝もあつたかな・・・九時から十時半とか。それはA病院の院内だったね。だから初めからミーティングをびっちりやつて、一日必ず二回出るとか言われた（笑）。

—その当時の分かち合いのテーマはどういうものでしたか？

こうじ

今と変わらないよ。ビッグブックミーティングもあつたな。十二&十二のミーティングも僕が来た時点ではあつたね。

仙台でミーティングが始まって一年経つて僕が来て、もうその頃毎週木曜日は、北仙台教会でビッグブックミーティングをやつてたよね。十二&十二は、どこだったかな・・・一本杉教会かな。

で、困つたのは、ミーティングに人は集まるんだけど、話せるメンバーが少ないわけ。それで今だったらQ&Aでもするんだろうけど、みんなパスするんだよ、一時間半のミーティングでねで、司会者が困つて、どうしましょう・・・とか（笑）。

まだ自分の事が喋れないメンバーが多かつた。それが長い期間続くんだね。夜は仕事が終わつたメンバーが来るけど、昼は病院からミーティング行けと言われた人がほとんどで、入院中のメ

ンバーとか退院してすぐのメンバーとか。役所に見せるための判子をもらいに来る人とか、ほとんど喋らない感じ。ていうか喋れない感じ。それからしばらくして、みなみグループを立ち上げる為に柏木グループを抜けるんだけど、もしかして、柏木グループが出来てからすぐ、割と早い時期に仙台グループと名前もかえたかもしれないね。

で、結局日曜日のミーティングもできて、週十三回位になる訳。

—どうして柏木グループ（仙台グループ）からみなみグループへと枝分かれしたのでしょうか？
こうじ

あのね、結局週十三回のミーティングを、柏木グループだけでやんなきゃならなかったの。一つのグループで週十三回のミーティングを責任持って開催しないとイケなかった。

そうなると、何が大変って、まずそこを開けなきゃいけない（笑）。

例えばグループの会計を決めたとしても、週十三回のミーティング会場に行けないでしょう。そういう献金の管理とかミーティング場を開ける役割が、個人のメンバーに積み重なっていったわけ。

で、枝分かれしようとしたんだけど、それに関してはかなりの論議があったよね。短い時間で説明するのは難しいし・・・でも短い時間で説明したほうがかえって良いのかもしれないという両方の思いがあるんだけど。

なにが問題だったかっていうと、一人のメンバーが週十三回のミーティングに行くしかなかった。チェアマンを誰かがやると言っても、例えば役割を決めたって、昼夜にあるミーティング会場にずっとくるのは難しい。そうなると、もしミーティング会場が開かれていないなんてことになつたら、初めて来る人は二度とミーティングに来なくなつて、酒をやめられなくなつてしまうから、中でも責任感の強いメンバーがなんとしても会場を開けようとする・・・時期にもよるけど一人のメンバーが責任を負ってしまうんだ。

そういうことで、当時一つのグループで週十三回のミーティングをやっていくのは結局難しかったんだと思う。献金の管理も、役割の人はいつも来れないから、あの献金はどこいったとか

なる。そうなるといつも責任を持って会場に行っているメンバーが、チェアマンから司会から会計まですることになるんだ。

でも考えてみると、そういうのを背負って責任感もってやってたら、その人達絶対酒止まるよね（笑）。ミーティングの数も多いし。大変だったけど今思えばそれは良いことだったし、逆にラッキーだよ。徹底的にやるから楽に酒が止まるし（笑）。

だけどそれって考えてみると、回復する人が少なくなるっていうかね。良くも悪くもそういう風にやってる人しか回復できないから。

で、当時の僕の思いとしては、せめてグループを北と南に分けてみるとか、東西南北にわけるとか。そうしたら回復する人も多くなるんじゃないかってね。要するにグループを増やしてサービスをもっと分かち合おうと思ったんだ。やりきれなくて限界も感じていたしね。

それで話し合いをしようとしたんだけど、ただでさえミーティングに来るメンバーが少ないのに、さらにビジネス・ミーティングで集まらなくて（笑）。

枝分かれする事についてもっと話をしたかったんだけど、なかなか話し合いが持てないから、仲間と俺でグループを出ちやおう（笑）と。というわけで仙台グループを抜けたんだね。

今の仙台がバラバラなものも、そのことが少なからず原因になっていると思う。仙台のグループ同士仲悪いじゃん（笑）。言い方が悪かったかな。一体性が乏しいでしょう。

そのことについて、僕は今でも責任を感じているんだけど、その当時は他の方法があったのかになって思うな。それがきっかけでグループが分散されて今の感じになったしね。

—そういうことがあったとは知りませんでした。少しお話は変わりますが、当時まだ苦しんでいる仲間は、どのようにしてAAを知ったのでしょうか？

こうじ

A病院からの紹介でAAに来た人が百パーセント近くだったね。だからA病院からの紹介がなければAAにとってもつながりにくい状況だった。

で、話はそれるけど、当時のミーティングではA病院出身のメンバーだけで固まっちゃって、

他からきた人達はかなりとつつきにくい感じっていうのかな、他から来た人を自然に仲間はずれにしてしまう雰囲気とかがあった。

今でもそんな雰囲気はあるかもしれないけど、新しい人というか・・・今インターネットを通してA Aに来る人もいるじゃない。要するに現在は病院だけでなくて、もっと広いシーンでA Aを知って来る人もいる。

だから同じ病院の出身者ばかりで固まらないで、もっと広く新しい人を受け入れる雰囲気作りが当時大事だったと思うし、今でも大事だよ。

—本当に私自身も痛いところを突かれるお話です。その当時の事を踏まえて、反省点等はありませんか？

こうじ

そうだね・・・やっぱり仙台グループから離れるときの分かれ方だよ。

もう少し時間をかけて話し合えば良かったなと思う。当時、仲間と僕とがグループから離れるということでしたか解決策を思いつかなかった。その事に対しても後悔とは言わないんだけどもっと話し合えたら良かったなというのが本音だよ。

今の仙台のA Aがこういう形になっていった原因が、その二十二年前の話を未だに引っ張っているからかもしれないから。

—約三十年前にA Aが仙台に来たという事ですが、その後どうやって東北に広がっていったのでしょうか？

こうじ

仙台でA Aが始まった頃、実は秋田でもA Aが始まりかけていたんだよ。秋田のB病院かな・・・そこのお医者さんが、患者さんを集めてA Aミーティングを開いたみたいだね。

その次は福島。福島市だね。福島市、郡山市、双葉町の順かな。イマイチ定かじやないんだけどね（笑）。で、盛岡、山形じゃないかな。青森は山形より早かったかもしれない。盛岡とか郡

山とか青森とか大体同時期だったと思う。

— A Aが東北に来た頃の、一番の思い出話はなんでしょう？

こっじ

一番の思い出話ね・・・仙台のA Aメンバーと東京のA Aメンバーが双葉にメッセージを運んでた頃なんだけど。距離的にも時間的にも仙台と東京の真ん中なんだよね、双葉って。

仙台のメンバーはソーバーが短くて、メッセージ経験もそんなにないわけ。東京のメンバーは仙台のメンバーよりもプラス十年位のソーバーを持っていて、そのメンバーが双葉に来てくれて仙台のメンバーと会えたんだよね。そこで一緒にミーティングしてたわけ。ていうかメッセージだよ。そこでもらえるものは大きかったよね。双葉グループの初期メンバーがまだ入院してた頃だよ。

で、その頃の二人がミーティング開こうってなったわけ。（平成二十三年の）津波の被害にあったC病院でだよ。それから双葉グループのメンバーが、仙台にメッセージをもらいに来たんだ。毎週、毎日のようにかもしれない。すごい回数で仙台に来てたよね。双葉から仙台って電車だとかかなり時間がかかったはずだよ。で、それで逆に僕らが力をもらったんだよ。もう二十五年以上前の話になるんだね。忘れられない思い出だよ。

あとね、オフィスができた話かな。

仙台のA病院に、メンバーのたまり場があったんだ。言い方は悪いかもしれないけどね。A A風にいうとクラブみたいな感じになってたんだね。A Aメンバーがそこで毎日のように朝からコーヒー沸かして詰めてたんだよ。

その場所はケースワーカー室の隣にあったから、隣の話が聞こえてくるくらい近くだったよ（笑）で、東北のA Aメンバーに連絡したい人は、A病院に連絡があったんだ。要するに事務所代わりに使ってたわけ。んー結果として事務所代わりになったっていう感じ。それが三十年前くらいかな。

で、それっておかしいでしょってことになって。自立していないのもあるし、病院のお抱えグ

ループみたく見られてもしょうがないよね。わざと自虐的に抱えグルーブって言ってたけどね（笑）。こつちが悪いんだけど（笑）。

だからそれってまずいよねってことになって、オフィス捜したわけ。二十四年位前にね。仲間二人と僕とで捜したんだけど、その仲間の一人が賃貸契約者になったんだね。最近までそうだったはずだよ。

でね、普通は賃貸住宅を事務所として借りられないんだけど、大家さんの家族が保健所の職員だったんだ。だからAAのことを知ってて、理解してくれる人だったんだよね。それで借りられたんだよ。経緯としてはそんなところで、関係者の協力もあり、今に至るんだね。

―お話は尽きなく、まだまだTCO（東北セントラルオフィス）のお話も聞きたいところなのですが、それは次の機会に取っておいて頂くとして（笑）。その当時AAの友人達とのエピソードなどありましたらお聞かせ下さい。

こうじ

当時はいかにA病院から自立するか。やはりAAの友人としてあの病院がなければ、当時仙台でAAは始まらなかった訳だけど、そこからの自立っていうのは大きな課題だったよね。でも注意しないと今でも依存しそうになっちゃうよね。

だから当時のメンバーの思いとしては、もう病院でミーティング開くのやめようってことだったんだ。なぜやらないほうが良かったっていうと、やはり依存関係を切りたいたんだよね。ミーティング会場を借りることが依存とは言わないけれど、やはり抱えグルーブ的なものに見られるとA病院以外からAAに繋がるのが難しくなるから自立しようって当時の仲間が考えたわけね。だから病院からミーティング会場をなくした時期があったんだ。

結局AAの友人達がいなくなったら仙台で当時AAもできなかったんだけど、逆にこちらの依存心が強いついていうかね。だって病院で最初の頃のミーティングって、関係者がかなり献金いれてたり・・・。そういう事もあって前にも話した通り、お抱えグルーブ的に見られることに危機感を抱いて、オフィスを作って自立しようとしたんだ。そうでないとAAが広がっていかない

思っただよね。

―なるほど、そういうことがあって自立したということの良い意味でとらえると、病院への依存関係があったからこそ、現在の自立があったと考えることができますね。

こうじ

そう考えても、親離れできるまでが遅かった気がするね。なんともいえないけど、親は親で違う意識でいたのかな（笑）。

ここは大事などこつて言えば大事などこなんだ。東北のある病院でのことなんだけど、AAの会場まで患者さんを送り迎えするとか、初めは良いかもしれないけれど、その感覚が患者の中で良しつてなれば、それが当たり前になるのが怖いよね。看護師さんとかケースワーカーさんとかやさしすぎると回復しないし（笑）。

結局その人たちが最後まで尻拭いしていると、その人は飲んじゃうでしょう。そういうことを解っていない関係者とか多いし（笑）。

その辺はAAの伝統の中の、協力はするけど自立していくという、そこが大事だと思うな。むしろは善意でやってくれるし、こっちは甘えたいし（笑）。

だからその頃はまだ仙台のAAが自分の足で立つことができなかったから、しばらく病院の中でやれたのは助かったけれど、ある程度の時期になったら、自立して同等の関係になるとかさ。そこがやはりAAの広がりに影響してくるんだと思う。

要するにそれが当たり前っていう風になると、あてにされた方はソーバーが伸びるけど、あてにした方は自立しないと成長しないというか、ソーバーが伸びる率が少なくなるということだね。

AAからソーバーをもらって依存してるといずい（仙台の方言「違和感がある」「居心地が悪い」）んだよね。A病院でしかミーティングがないことに、仲間達が非常にいずさを感じて外に出たわけでしょう。教会にはちゃんと献金という形で会場費を払って、自立していった。やはりそこから仙台のAAが広がりを見せていったと僕は思うね。

そういうことで、AAの自立心というのは、とつても大事なことだと思うよ。

—こうじさんにとって、AAとの出会いはその後の人生に何をもたらしましたか？

こうじ

ソーバーと幸せな人生だね。

AAを知らなかったら、早いうちに高い率で死んでいったと思うし。その死ぬだろうなって恐怖心がAAに通わせていたというのもあるね。

やっぱりソーバーだけじゃなくて、ソブラエティを得たということだよ。アルコール依存症って人間関係の病気とも言おうでしょう。だからAAで人とかかわり合い方、付き合い方をゼロから学んだんだろうね。そこが大事だったし、生き方を教わったんだよね、AAから。

—これからAAの中で、やっていきたいと思うようなことはありますか？

こうじ

新しい仲間、自分のやっているサービスを引き継いでいきたいね。

もう矯正委員会のほうも二十年近くやっちゃってるしね。本来は輪番制なんだから、早い時期に抜けたほうがよかったんだけど、ここまで引っ張ってきたよね。(だから)今年でやめた(笑) 次なにやるかって、あんまイメージないかな。だけど今までサービスでもらった経験を伝えていきたいよね。

—通りはやったから、これからは僕がメインになってなにかやるってことはないだろうけど。

—こうじさんにとって、自分で理解するAAの一体性とはどのようなものですか？

こうじ

うーん、難しいよね・・・一番難しいことだよ。難しいっていうか未だにそうなんだけど、一体性を持ってやっていきたいんだけど、一番難しいことかもしれない。

伝統一を求めているんだけど、自分自身の病気の部分が、なかなかそうさせてくれないことを今でも強く感じるよ。だからそこは注意しないとイケないというか、重んじないなって思う。

でも多分一体性を・・・一体性ってさ、相手がいる話だから、一体性を意識して、どう考えどう行動するかってことなんだろうね。祈らなくてもいけない。一体性を考え、祈り、行動していく。今でもすごい課題だね。

百パーセントできたら僕が死んじゃう時かも知れないけれど（笑）。でもそこが回復し続けるポイントなんだろうね。

個人の回復って、一体性を保っているかいないかに掛かっているっていうことだよ、伝統十一つ。だからそこをやっぱいつも実践していく努力をしていかないとね。

―それでは最後に、まだ苦しんでいる仲間にメッセージをどうぞ。

こうじ

一緒にやろう！

―本日はありがとうございました。



「AAが双葉に来た頃のあれこれ」

インタビュイー AAメンバー かおる

※インタビュー内容はAAメンバー個人の意見です。AA全体を代表したもので、グループを代表したものでありません。時系列等も個人の記憶ですので、前後する場合がありますがご了承下さい。

—今日はお忙しい中、AA東北見聞録のインタビューを受けていただきましてありがとうございます。今回は「AAが東北に来た頃のあれこれ」と題しまして、インタビューをさせて頂きます。まずは最初の質問ですが、かおるさんが覚えている限りで、AA双葉グループの草創期はいつ頃でしょうか？

かおる んん、Aちゃんがね、平成元年にバースデーだったんだよね。だからその二年前か、一年前か、そんなもんだよね。だから今から二十七年前位なんだよ。だから俺が二十七年（編注…ソブラエティ（飲まない期間））だから、あれっ、二十七年と五ヶ月だから、二十九年前だよ。

—ということは仙台にAAのメッセージが入ったのが三十一、二年前ですから・・・仙台からAAメッセージが入ったんですか？

かおる そうじゃなくて双葉グループが出来た経緯は、あたしたちがまだA病院に入院していた頃、いわき市のB病院にケースワーカーさん達と一緒に行ったの。そこにAAのメンバーが一人居たのよ。Bさんってね。Bさんだったと思うなく。

そのメンバーが病院に一人居て、それで東京からと仙台メンバーが五人位かな。その人達が

オープンミーティングみたいのを開いたんだよ。会場はどこだか忘れたなあ・・・病院ではないね。どっかの施設だよな・・・そんなの覚えてないけどさ。

そこでやってくれた時に、Cさんって言うケースワーカーさんがAAメンバーに興味があつて、その人がアル中さん達をどうしたらいいのかなって考えている時に、いわき市辺りでAAというものが開かれるからって、私たちが入院していたA病院から連れて行ってくれたの。

それで、その連れて行ってくれた時に、AA春日部グループの女性メンバーに会ってすぐに・・・私は右も左もわかんない状況で、この人があなたのスポンサーだよって紹介されて決まったの。

それが済んで、その時はすでにAAのメッセージはいわき市に入っていた（C病院）。B病院にAAのメッセージが入っていて、それからC病院にメッセージが入ったんだね。

―なるほど、では最初に仙台と東京からいわき市のB病院にAAのメッセージが入っていて、それからC病院にメッセージが入ったということですね。

かおる

で、それから正月過ぎに双葉のA病院に一年間、仙台と東京のAAメンバーがメッセージを運んでくれたんだよ。仙台のメンバーは四人だったね。あと仙台にいたのはもう一人か。その人はメッセージにはこなかったかな。

―仙台からメッセージャーの皆さんは、どんな交通手段でいらっしやっただけでしょうか？
かおる

いやいやいや、いちいちそういうことを聞いちやだめだって言われてるの。AAは自分から聞いちやいけないけれど、自分から言うものに対しては大丈夫だけど。根掘り葉掘り聞くなって言われてんだよ。

―それは失礼しました。ということはそのメッセージが一年間続いたということですね。

かおる

その時にメッセージを東京から運んでいた人達の考え方は、一年間メッセージを運び続けて芽が出ない時（編注…ミーティングに誰も繋がらない事）は、メンバーが繋がらない場所だから続ける必要がないということなんだね。なんでかと言うと、そこで回復することのない患者をいじくり回しても宝は生まれえない。メッセージを一年間運んで本人にやる気が本当にあつて、死んだつもりでミーティングやればなんとかなると。

要するにメッセージャーの数は限られているわけだから、一年間メッセージを運んで誰も繋がらなかったらそこは切つて、次に行けということなのよ。おわかり？

―なるほど、理にかなったお話です。ということは、かおるさんは今でもそういう風に考えていらっしゃるのでしょうか？

かおる

当然でしょ。AAだよ、その通りでしょ。はっきり言うと、AAは仲良しこよしじゃなくいの。だから無力なの。はい了解。

―ありがとうございます（笑）。

―その頃のメッセージの様子等覚えていらつしやいますか？
かおる

同じだよ、今と同じ。変わらないよ。もらったものを、もらったようにしか伝えてない。けど今よりは、厳しく冷たくなった。当然でしょ。厳しくって言うのは自分に厳しく。

AAっていうのは何が元になっているかっていうと、自分自身の自己責任がないことには全ての自由がない、ということなの。それは厳しいじゃん。みんな最近自分のさあ、責任を持たないでさあ、あつたらこつたら偉そうに先生やってるけど。

ミーティング会場で喋ったことに対しては、自分で責任を持たないと。例えばあたしがミーティングで話したことは、自分に対してやるって決めた事だから、ちゃんとやったことに対して

喜びをもらえるわけさ。それを全部やれとは言わないけどさ、病気持ちだから（笑）。人に対してではないよ、この責任は。自分がやればいいの。人がどう思おうと、どんなことしようと、あたしだけの自己責任。

自分で朝考えたこと、今日一日目標立てて出来たためしあつか？

半分くらいでしょうか？

かおる

半分もできんのか、おめ（笑）。

言ってみただけですけど（笑）。

かおる

だから、「夜、黙想」って書いてあんだろ（笑）。漫才だよ（笑）。自分で考えて自分の手で酒を飲んだんだから、誰に責任持たせんのか？自己責任だよ。

ーありがとうございます。メッセージが入ってどの位経ってAA双葉グループが出来たのでしょうか？いわき市にメッセージが入って、かおるさんがそれを聞いて、それから双葉に行くわけですよね。

かおる

双葉グループね・・・あれ双葉にメッセージ来る前だったか、後だったか・・・いわきにメッセージが入って、一年ちよつと過ぎた頃かな・・・。双葉のメッセージの時に、私の一年のバースデーしてもらったんだから。

メンバーは四人居たの。双葉グループっていうのはメンバーが集まって退院してからの話だから。ミーティングは双葉で開いてたのよ、その時は。

んでね、たまたまさ、メッセージ運ばれて一年なるかなんないかの時だね。俺いわきで凧揚げやったんだよ。その時にさあ（笑）、大勢来たんだよ。八十人位来るわけ（笑）。

私のソーバーが一年過ぎた頃なんだけど、凧揚げの後ミーティングがあつて、その時たまたまちよつと先行く仲間がさあ、「かおるお前司会やれ」って言われて司会やったのは良いんだけど

ど、その時にさあ・・・とんでもない自分の思ってもいないようなゴマすってんの（笑）。

「いわきは良いですね〜グループが出来て、できれば双葉にもミーティング会場できれば良いと思います」って言っちゃったの（笑）。その時「かおる〜お前帽子かなんかもってねえのが？」って言われて、ないって言ったんだけど「じゃあ手袋かなんか持ってねえのが？」って言われて、それしたら手袋はあったんだよ（笑）。

それで手袋回せ〜って会場回したら、献金一万七千円入っちゃったの。びっくりでしょ。

したら一万七千円も入ってき、中には一人で五千円も入れてくれた人もいて。で、もらったら「しゃ〜ねえ〜なあ」（笑）、って、「グループ作るしかないねべした〜」ってメンバー三人で頭抱えて「じゃしかたねえなあ、グループ作るか」ってことになったの（笑）。

それが双葉グループの始まりですよ（笑）。

―なるほど、そういう経緯があったんですね（笑）。こんな話を聞いたのですが、双葉グループのメンバーの人達が仙台に毎週通っていたことなど、双葉グループが出来た頃の苦労話等聞かせて頂けますか。

かおる

苦労話、あるべしたあ。グループはできたけれども井の中の蛙だから、「お前だちよそのミーティング行け」って言われて。

畳の上で酒をやめるって考えるのと、出歩くのと、どっちが良いかって言うことなんだよ。

病院だけとか、自分たちのグループだけとかやってたら意味ないだろ。だから外出て歩いて言うんだよ。

グループがあんのは仙台だけだから、仙台にあたしは病院から週一回通わせてもらったの。病院プログラムの一環で、まだ双葉グループが出来てない頃から仙台に通ってたの。いわきでの風揚げがある前に、仙台のAAに病院から通わせてもらってたのね。

だから今までの流れを要約すると、あたしが最初にAAに行ったのはA病院から治療の一環として仙台のAAに通ってた時なの。いわきにはその頃東京からメッセーシが入ってたわけ。あた

したちは病院プログラムの一環で、先生とケースワーカーさんと福島県からの指示で、F病院からお金をもらって、治療と、AAの見本という事で仙台のAAに通わせるって事になって、三ヶ月間全員が通ったの。その中の四人だけが一年間双葉で東京と仙台からAAメッセージを受けたの。

いわきに一年間メッセージがあつて、そのあと東京と仙台から双葉に一年間メッセージがあつて、その間にあたしたち五人は仙台のAAに通つたのね。

病院にいた頃は治療の一環として仙台に通つたけど、それから退院して自費で仙台のAA通つたの、仲間とね。

でね、仲間と一緒に通つていたんだけど、あいつが悪いこいつが悪いって、電車の中では別々に座つて（笑）。会場一緒なんだけど、仙台駅から会場までみんな別々の道歩いて行つたり（笑）。まあ仲良しじゃなかったわね（笑）。

双葉グループとしてもっとひどいのは（笑）、みんな金ないわけだからさ、な、最初は申し訳ないけど、ケースワーカーさんにおんぶに抱っこだわな、会場費。俺たちは悪いけども、減免とかああいものは一切受けてないから。全額会場費は払っている、双葉グループは。

けども最初はどうにもできないから、私たちが働くまではケースワーカーさんが会場に来てくれて、献金として会場費を入れてつてくれたんだ。双葉グループのミーティングの回数は週1回かな。ミーティングが沢山必要な時は週三回やってたんだけども、必要に応じて回数は増えたり減つたりしたわけ。

―なるほど、ありがとうございます。それでは次の質問ですが、双葉にグループができた後、どのような形でAAが福島県内に広がつていったのか、分かる範囲で結構ですので教えて下さい。
かおる

その後に来たのはさ、郡山だべ。

郡山グループかな。最初から言うのと、福島、双葉、郡山、その後C病院にもメッセージが入つたんだよ。その何年後かに、Dがさ、いわきグループ作つてくれたの。

それでいわきグループでも色々あったの（笑）。Dは水戸に居ただけで、高速使って来て、あたしたちは双葉から仕事終わった後にパンかじりながら（いわき市に）行く、というのを三年位続けたの（笑）。そしたら東京から夫婦のAAメンバーが来て「ご苦労様です〜私達でこれからやりますので、もう結構です〜」って言うからさ、くそつたればがじゃねえのって思って、そこは行かなくなったんだけど（笑）。それもあたしたちより先行く仲間ですよ（笑）。だからAAは本物とうそんこが混じりあってるんだけど、それを良い悪いはあたしだけが決めれば良いの。ということもありました（笑）。

—双葉グループでミーティングを始めた頃の反省点等がありますか。

かおる

俺は、先行く仲間に言われたんだけど、自分で反省するようなことは有り得ないって言われたの。なんでかわかるか？ 反省するってことは、自分がそれだけ有力で、ね、力が有るって思ってるから反省するんだろ？ ね、だから反省はない。

—もう少しこうしたほうが良かったと思う点ありませんか？。

かおる

それは自惚れなの。でしょ？ だから黙想して「そうありませんように」って祈るんだかい？ 解った？、と俺は思ってたの。そういう風に先行く仲間に入れてもらったの。反省してるなんてふざけんなバカヤロー、頭の中で反省してなにが反省だい。これがAAなのよ。

—双葉グループでの思い出などお聞かせ下さい。

かおる

いっぱいありすぎて、数えらんねえけど（笑）。それはね、大勢のメンバーがどこも行くところなかったから、沢山のメンバーが来てくれたのはありがたんだけど・・・俺には借金じゃん？ ミーティングに来てもらったんだからさ、そのお返しが大変だったよ。暇と金ねえしよ。しよ

うがねえから、給料もらったらさ、食えなくてもすぐにさ、振り込んだ。お返しする為に。イベントに来てもらってる訳じゃん、双葉グループに。来てもらったらお返しに行かなきゃいけないわけだ。そのお返しだよ。それが当たり前でしよう？だって、財産無くすまで飲んだ人が、ちよびっと働いたからといって、財産残せんのか？おめ？ そうなのAAは（笑）。

最初グループとしては、逃げが多かったね。そろそろほら、チクチク言う人いなくなったけどさ。おかげさんでさ、今で言う四、五（編注・AAの十二のステップの四と五）やれとか、じゃあOSM（編注・オープン・スピーカーズ・ミーティング）やれとかイベントやれとかさ、そんな感じでつつかれるわけじゃん。

でもみんなやれないじゃん、自信ないんだからよ。そうすると、どうするべって最初逃げたのは、「んだなあ、やっちゃぐねえながら、適当にOSMやって誤魔化すか」って始まったんだよ。

それがグループのイベントの始まりだよ。そしたらまた手があがるんだよ。「かおる、せっかく俺東京から行くんだから、前の日に宿取って、まぶっておげ（編注・確保しておけ）」って言われたらさ、俺だってしようがねえがらさ、金ねえのにさ（笑）、一番安い民宿取つとぐばいそれがお泊りイベントの始まり。せっかくだからさ「かおる、こんなに大勢のメンバー来てくれたんだから、顔売って司会やれ」って。要するにそうやって先行く仲間は、嫌われながら導いてくれたの。感謝してるよ。全部感謝。だんだん誤魔化しも効かなくなんだけど、一人じゃないから。3人居たから。1人亡くなったんだけども。

で、先行く仲間の提案としては、ものすごくあたしに残ってる力になってんのは、一人メンバーが亡くなったじゃん。そいつが血だらけでさ、ベロベロになって飲んで会場に入ってきたの。で、一言その人に「おめー素晴らしいかつこしてんな」って、「それほど命かけてここに来たかったのか」って聞いたたら、そいつが「うん」って。じゃここに居さしてやつから、黙って聞いてるって、喋っちゃだめだぞって言ったの。ちゃんと聞いてたよ。それだけ命賭けて来てるんだよ、ミーティングに。で、先行く仲間が言った台詞。

「かおる達、よく見ておけよ。一千万金積むから、おまえこれと同じ状態にしろって言ったってしらふの人はできねえぞ。良い宝物見させてもらって、おまえたちこういう姿は踏み台にして、

自分が申し上がらなくちゃいけない」

そいつの前で言ったんだよ。その人の励みにもなるし・・・それぐらい厳しかったの。仲良しこよしなんてありえねつつうの。死ぬか生きるか、がんばってAAに来てるのに、仲良しこよしでやりましよう、なんてあくりくえくねつつうの。でしょ、命掛かってんだよ？死ぬか生きるか。それが思い出だね。

―当時AAの友人との思い出などがあればお聞かせ下さい。
かおる

俺たちは、AAが数少ないときだったから、医者も利用したし、ケースワーカーさんも利用した。で、ケースワーカーさんもなんとか立ち直らせたと思って思っているから、ケースワーカーさんは自費を投資して休みの日にイベント会場まであたしたちを乗せて行ってくれた。金ないから送り迎え。

だから、自立しなければならんっていうのは重々承知しているけれど、その当時はできなかつた。だから、そういうことを十分知っているから、あたしたちは会場費の減免は一切しなかつた。AAの先行く仲間から、厳しいものももらったから。だから、ひとつこれだけは本当に強調したいのは、双葉グループを立ち上げたのは四人だけど、未だに三人生き残ってるって言うこと。これだけは言える。それだけのことみんなやったんだね、切磋琢磨して。あいつが悪いこいつが悪い、あいつより先に飲まねえぞ、って言いながら（笑）。ライバルは必要だよ？でも蹴落とさなきゃだめだよ、自分が潰れるから。

―かおるさんにとってAAとの出会いは、その後の人生に何をもたらしましたか？
かおる

人生そのものだろうね。だって、考え方生き方知らなかったんだもの。常識知らない人だったから。でしょ？全部教えてくれた。人生です。

—これからAAの中でやっていきたいこと等ありますか？
かおる

おとなしく、死ぬまで出来れば歩きたいな。これ以外なものもない。

—かおるさんにとって、自分の理解するAAの一体性とはどのようなものですか？
かおる

自己責任だよ、じこせきにん。だって一人がさあ、自己責任やんなかったら、一体性もなにも生まれねえべ。んで、一体性の個人とすれば、あたしのサービストっていうのは、ミーティング会場に出掛けること。この会場に、ね、さらけ出すことがあたしの目標ですよ。どう思われようと見本だから。それをどう取るかは、捻じ曲がった人は捻じ曲がったように取るし、ね、ああなりたいなあって思った時には真似てくれれば。あたしはまだ飲んでないしって言うのがあるから。どう取ろうと、その人の問題だから。ただあたしの出来ることは、最大のAAサービスは、あたしが行ける場所でAAのミーティング会場に出た時があたしの最高のサービスです。

—まだ苦しんでいる仲間メッセージをどうぞ。
かおる

未来の仲間達、そこ（病院や矯正施設）じゃなにも生まれたいし、一歩出て。苦しんでいる人は、言っちゃ悪いけどさ、自分で一歩出て解決するしかないんだよ。ただひとこと言えるのは、あたしみたいに良いチャンスをもたらえて、自助グループに繋がってくれれば、最高だな。

それには、専門家を大いに利用して欲しいなあと思っている。もう一つ余計なこと言わしてもらって良いですか。やってやる、やるやるなんて言った時には、だくれも来ません。突き放したときに「こんチクショウ」ってくつついてくる。これだけ覚えておいて下さい。そうしない人にどうぞ私の力をお使い下さいなんて、もったいなくてできね！

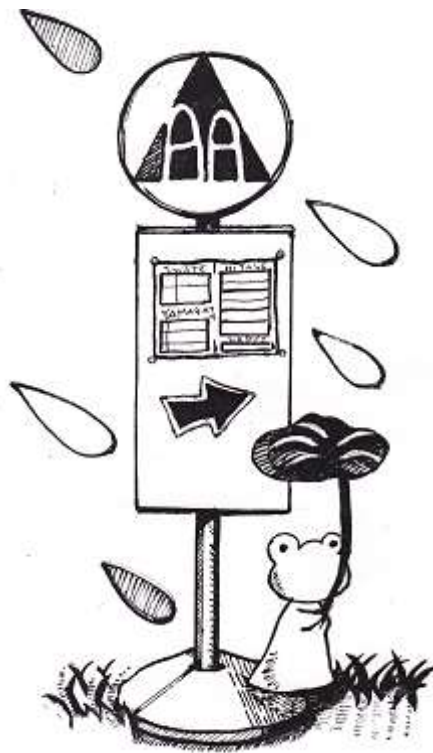
—ありがとうございます（笑）。最後の質問になりますが、東日本大震災に対して、一年目、

二年目と年々思いが変わってくるかと思いますが、三年経つての思いをお聞かせ下さい。
かおる

あたし個人の意見としては、なんら変わってないよ。

「思い」だったってさ、受け入れるしかないんだから。ね、さっき言った通り、未だに苦しみや悲しみが消える訳でねえんだよ。でしょ？だから仕方なくおいおい泣いたり、吼えたりしながらどう対処すれば良いかつつうのは今までA Aで教わった訳だから、二つのものを見わかる賢さだよ。そういうことだよ。

—ありがとうございます。



「AAが山形に来た頃のあれこれ」

インタビューー AA山形G ロン

※インタビュー内容はAAメンバー個人の意見です。AA全体を代表したものでも、グループを代表したものでもありません。時系列等も個人の記憶ですので、前後する場合がありますがご了承下さい。

ー今日はお忙しい中、AA東北見聞録のインタビューを受けていただきましてありがとうございます。よろしくお願いします。今回は「AAが山形に来た頃のあれこれ」と題しましてお話を伺いたと思います。よろしくお願いします。

早速ですが、覚えている限りでAA山形グループはいつ頃出来たのでしょうか？

ロン

平成三年十二月一日メンバー五人と記憶しています。A病院のソーシャルワーカーが、一〜二年前に宮城県松島町で開催された全国アルコール学会（編注：日本アルコール関連問題研究会（昭和六十三年））に参加して、その時AAに初めて出会った。ニューズレターにBさん本人が投稿しているので、その辺を参考にしてもらえると分かりやすいと思う。それで衝撃を受けて、仙台のオフィス：オフィスあつたのかなあ？ 当時なあ…。

とにかく、メッセージに来て欲しいと仙台に連絡をして、仙台グループからA病院に月一回メッセージが入るようになりました。それから、一年か…ちよつと分からないですけど、山形グループが発足したと聞いています。私もこの頃居ないので分かりませんが。

ーその頃はロンさんはいらっしやらなかったんですね（笑）。

ロン

「いないよ。一生懸命飲んでたよ（笑）。

—その頃の苦労話など、何か聞かれていますか？

ロン

んー。私が繋がった時は、正直、グループがつぶれかけてた（笑）。リーダーが東京に行ってしまったって、残された四人でやっていただけだけど、ミーティングが少なくなっちゃってしまい、ほとんどAAミーティングの体を成していなかった。

ハンドブックは使っていなかったし、献金箱もコーヒーもない。そういうミーティングで、ミーティングのやり方も司会者がメンバーの発言にコメントする時代だった。そこから、AA本来のミーティングに戻した。

私はAAってどんなものか、ここしか知らなかったもので、こんなもんだらうと思ってやっていたら大間違いだね。仙台の仲間や白石の仲間が来るようになって、AAとはどういうものか：「ハンドブックを使うんだよ」とか、「コーヒーセット置くんだよ」とか、「献金箱を置いて、これで経費を賄うんだよ」って教えてもらったんですね。

私がAAに繋がったのが平成六年十一月からだから。その時は、たった二人でミーティングをやっていたけど。多くて四〜五人の時代が八ヶ月続いて、八ヶ月後の平成七年七月、「お任せします」って、一人残らず居なくなっちゃった（笑）。

—えっ…？

ロン

本当の話。

—ロンさん以外、みんな居なくなっただけですか…？

ロン

「任せたよ、連絡先はコレコレ！」って。その頃かな、途方にくれてた時に、設立した時にリーダーだった人が東京でスリップして戻ってきて。全部その人と二人でやり始めたんです。すごく助かった。今もう、亡くなってしまったんだけど。事故で。

—メンバーが居なくなってから、どうなったのですか？ 苦労話がありますか？
ロン

メンバーが居なくなつて、やつぱりもういいやつて思ったのね、酒が止まってるしって。その後、その人たちとは二度と会ってない。ただ、酒が止まって九年目で入院したメンバーが一人いて、噂聞いたけど。その他の人は分かんないねえ……。病院にもどこにも姿現さなかったから。だから、苦労っていえばねえ。AAが何たるかを知らないでAAを始めたっていう（笑）。そこら辺が一番大変だったんだあ。

東京から戻ってきたメンバーに初めて仙台のオフィス（TCO）に連れて行ってもらったのが平成七年の八月頃かな。安比のラウンドアップ実行委員会をオフィスでやっていた時！ 自分で、AAの会議ってこういう風にやるんだーって。一人一人に回して、言いつばなし聞きつばなしで。それは鮮明に覚えてますね。

でも、そのメンバーが戻ってきてからはね、ミーティングのやり方ってのも分かったから。それまで、コメントしてたんですよ、一人一人に「そうですね」「そうなりますね」とかって。そのメンバーが戻って来てから、本人では私に言えなくて、A病院ケースワーカーのBさんを通して、「AAのミーティングってのは、コメントしないんだよ」って言ってもらって。それで、普通のAAミーティングになった。

そうだねえ。だから、私が繋がってからは、普通のAAミーティングだつて言われるようになるまでは、一年と二〜三カ月かかっているのかな。東京から戻ってきたメンバーがきちんと来るようになったからだからね。あの人の車で仙台によく連れて行ってもらったんだ。そして、仙台からもポツポツポツと来るようになったのかな、あの頃。山形まだミーティングやってるんだー！

って位で、もう潰れたと思ってたって（笑）、よく来てもらった。当時は、メンバーも五人五人くらいかな。それも重症の人ばかりだね。

―重症の人達は、どのようにしてミーティングに繋がったんでしょうか？

ロン

患者さんだから、病院から勧められて。ほとんどが福祉を受けていたから。

―ミーティングはどの位の頻度で開催されていたのでしょうか？

ロン

月三回。第一・第二・第四の日曜日だけ。第五があれば、第五も。というのも、C公民館が三日曜日お休みだったから、そこは無かったんだな。東京のメンバーが戻ってくる前かな。で、月三回じゃ、あまりにも少ないよねって話になって、第三日曜日の次の月曜日やるようになって。これで週一回になった。それから、グループが出来てから三年後位に、週一回じゃ足りないよね

っていうので、木曜日のミーティングを始めるようになったんです。

その頃、人数は若干増えて、七、八人になっていたかなあ。記憶が非常に曖昧なんだけどね。

―皆、A病院から来た方だったのでしょうか？

ロン

その時代は私と女性メンバー二人がA病院以外。山形のD病院っていうのがあったんだけど、その患者が、私と女性メンバー一人。あと、入院経験ない女性メンバーが一人。その他は、皆、A病院の入院患者だったなあ。

―当時のAAグループの運営で大変だったことを教えていただけませんか？

ロン

大変だったこと：誰も役割をやる人がいない（笑）。
—今と一緒ですね（一同爆笑）。

ロン

全てをこなしていたような気がしますね。場所取りから、会計から、コーヒー当番から…。今考えてみると、役割を自分で一人占めしていたのかなって気もします。他の人もやれたらうって思うんだけど、俺がやらなきゃ誰がやるって感じで。ここにすがりついていたからね。あれは、ちよつと…。他の人が見たら異常だったのかなって、今だったら思えるね、正直。役割っていうのは飲まない生き方を支えるから。今は結構、人数がいるから…。

—人数がいるから…、楽ですか…？

ロン

楽：っていうかね、だって人数二十五〜二十六人いるんだから。私みたいな年寄りが役割やって、どうすんのって！（笑）。

他の人の回復を防ぐようなもんだよ、まったく。

—では、次の質問ですが、AAが山形に来てから、どのような形で東北地域にAAが広がっていったか、時代背景を分かる範囲で教えてください。

ロン

時代背景…。あの頃、福島は郡山グループ・双葉グループ・福島グループしか無かったのかな。あと、いわきミーティングっていうのがあったんだよね。いっくら言っても、グループにならないとかって。確か、秋田には無い。青森が、弘前グループと青森が：あったかなあ？青森グループ、あと鱒ヶ沢っていう小さい村にもあったみたいだけど、実態は定かでない。岩手は、盛岡グループかなあ。一応、そうだと思うた。

秋田まで来たのはかなり後だから。秋田は、出来ては潰れ、出来ては潰れってしていたからなあ。

—山形からメッセージを運びに行っていたのですか？

ロン

新庄とか県内にはメッセージ先があったんだけど、私も鬱というか、病を抱えていて出来なかったっていうのが一番。車の運転が恐かったから、新庄まで行くのが精一杯だった。新庄まで行ったのが初めての遠出だったかな。

メッセージはね、新庄のE病院に行ってたのかな、一番最初のあの頃。A病院は最初からやってたから。私が来てから三年間くらいはA病院にメッセージやっていたのね。そして、その時平行ってやっていたのが：F病院。平成八年には、もうF病院に行ってるんだ。そして、G病院にメッセージ入ったのが平成七年。その頃は、A病院は離れて、H病院にメッセージを運んで、それが一年間かな。その後、I病院に長く入っていたよね。

今考えると、一番失敗だったのは、A病院を離れたこと！ A病院のメッセージを止めて、他の病院にメッセージを運ぼうとしたこと！

—どうして、そのような流れになったのですか？

ロン

仙台の先行く仲間から、「山形の他の地域にも広げたら？」って、「いつまでもA病院の時代じゃないよ」って言われて、人数も少なかったし、他の病院にメッセージ行くには止めざるを得なかった。

—グループみんなで、メッセージに行っただけですか？

ロン

平成七年の時だから、時系列で言うとうどんなんだろう…。

私が平成六年に繋がって、平成十年位まではA病院にメッセージ入っていた。平成七年からは、G病院にメッセージが入っていた。そして、F病院は平成八年から入った。そして、H病

院に移ったのが、A病院をやめて、平成十…年頃だと思う。一年間だけ。

そして、一年で終わったから、その後、I病院だけはずーつと続いた。ずーつと。どこにも行くところなくて。結構、探したんだけど。A病院には、戻りたくても戻れなかったから。

—何かあったんですか？

ロン

院長が他の自助会を推してた！ そもそもAAを作る時から、メッセージをA病院で受け入れる時に、Bさんと院長が暗黙の戦いを繰り広げて、「AAなんてあんな変なもの日本の風土に合わないから止める！」って。Bさん、首を賭けてやっていたという、そういう話です。あの人は、山形のAAの恩人なんです。

—過去の経験が、今のメッセージに活かされていることって何かありますか？

ロン

山形のような田舎では、AAは非常にうさん臭いものだと思われるのね。宗教で神がかつていて、しゃべることもそうだし。なので、宗教的な色彩は極力避けるというか。言葉使いも含めて。

そういう風にメッセージをするようになったね。それが、これまでの教訓かな。メッセージを受けた側の印象として、何か訳の分からないことを話していたけど…神がかっていたなという印象を受けたという話は何回も聞いていたから。とても、そこには行く気になれなかったって。あーんな人達と一緒にやれないって（笑）。

—そう思っていた人たちが今繋がっているということですか？

ロン

そういう人もいます、当然！（笑）。

―それは、どういうきっかけでしょうか？

ロン

それは、本人にも分からない。

例えば、J。平成十二年のラウンドアップに行った時、「とんでもない話ばかりしている」って、「俺はこんなところ来ない！」って言って、翌年に、ちゃんんとAAに繋がってた（笑）。自分でも、どうして来たのか分からないって。だから、そんなもんなんだ！

「あんなうさん臭いところ行かない！」と言ってた人間が来るんだよ（笑）。結構、そういう人多いよ。やっぱり、引き付けるものがあるんだろうね。悩みに悩んでいる時に、自分と同じような人がいるんだって。そして、お酒を止めているって。今繋がっているメンバーだって、オカルト集団だと思っていったって。変なカタカナ文字ばかり使うし、話すときは自分のこと「アルコホーリックのく」って言うし、初めて行って帰る時に握手されて名刺まで渡されて…とかって。二度と来ないと思ったけど、次の回も来ましたとかって（笑）。

だから本当に、あくが強いつていうかね、そういうのあるんでないかな。山形は、他の自助会の方がはるかに活動的だから、そちらに引き寄せられる傾向があるのだと思います。

関係者が、やっぱりAAの広がりを見て握っている。関係機関とは、きちんとした関係を結ばない限り、こんな田舎でAAに行けとは言わないから。

今から五年くらい前から、県の精神保健センターと村山保健所と、F病院と、A病院の四ヶ所に、『BOX・916』とミーティング予定表と、『東北見聞録』出来てからは『東北見聞録』も、毎月一回定期訪問して届けている。

その中でアルコール研修会なんてあつてね、「講習に来てくれないかー」とかってあるし。あとは、「安心してAAを勧められる。あの人たちの所だったら大丈夫！ 飲まないでやっているみたいだし」って。そういう効果はあるという気がしている。

とにかく関係者にAAのことを知ってもらおう。私達がいくら頑張ったって直接呼びかけても来ないから。関係者の人に「あんなアル中なんだから、行った方が良いよ」って勧められて初めて来るっていう。だから、関係者へのメッセージって言うかね、すごく大切だと思う。特に山形

みたいなところは。

—では、日頃から関係者と良い関係を結べるよう努力をされていたんですね。

ロン

そうしてきたね。

—気付いたら、そうなっていたんですか？

ロン

いや、あの：最初は恥ずかしくて出来なかつたけど：、退職してしばらくしてから「いや、ただ、やらなきや駄目なんだよな」と思って、一人で始めた、最初は。それが、今から何年前だろう、三年前に、若い男性メンバーと一緒に、若い女性メンバーも一緒に、三人で定期訪問してるんだ。そうすることによって、自分自身も飲まないでいられて保障みたいなものがあるからね。これは、どこでもやらないといけない大切なことだと思うけどね。仙台みたいな大都市は別として、田舎のAAだったらどこでも一緒。

—話が前後するかもしれませんが、AAで印象深かった思い出をお聞かせください。

ロン

印象深いというか何というか、ここまで落ちないと酒止められないのかって、そういうイメージを与えたね。自分も精神的にどん底まで落ちただけど、周りのメンバーを見ると本当に落ちるところまで落ちたメンバー：大変失礼な話なんだけど（笑）。

だから、自分もここまで落ちていかないと、本当に長くやめていけないのかって、そういう思いはあったんですね。今は、仕事をもって、きちんと普通に暮らしている人の方が、圧倒的に多数派だけど、当時は普通に就職して家族持っている人はほとんどいなかったから。単身で福祉を受けて：そういう時代。二十年近く前だと。今のようになるなんて、考えもしなかったけどね。

—だいぶ、底上げされてきているということですね？

ロン

そうですね。山形は第一次発展期と第二次発展期があつて今に至るんだけど。一回階段上がつて、そしてまた、ずーっといつて落ち目になつて、また、ドンっと階段上がつてまた平坦に落ち着く：そんな気がしますね。やっぱり一本調子には成長していかないっていうか。

—アルコール依存症の回復と一緒にすね…。
ロン

そうだね（笑）。一回目の階段登つたのが、平成十二年の山形ラウンドアップが終わつてから二年後。A病院から患者がひと固まりで来たんだ。Jがその前だな。んで、次の年、A病院から五く六人来て。それから、四く五年は結構その状態が続いたんだけど、しぼんだんだね…。あの頃、あの部屋いっぱいになつていたから。次第に来なくなつて、十人前後になつたのかな。そして、もう一回こうガタンと上がったのが、平成二十二年から二十三年。木曜日・日曜日のミーティングは、いつも満杯で一人あたり喋る時間が五分位になつていたから。

そして、平成二十四年の六月に水曜日午後のミーティングを始め、それもあつという間に二十人超えるようになって、今年の二月から月曜日午前中のミーティングも始めるようになった。今は落ち着いてきて、どこに行つても人数が均等になってきたね。昼二回・夜二回つてというのが丁度良い。

山形の特徴つて、家庭を持つている女性が多いから夜出られないっていう状況です。あと、山形市内だけでなく遠くから来る人もいるから、やっぱり夜は運転がおつかないよね。昼だと来れるつていうメンバーもいる。遠くから来るから。

そういう意味で、少人数でゆっくり話したいなと思つて昼のミーティングを初めて、そんな風には考えてもみなかつたんだけど、そんな効用もあつたなと。

—AAのニーズはあるんですね？

ロン
あります！ 確実に。

—遠方のメンバーはどのようにミーティングを知ったのですか？

ロン
Y地区のメンバーはK病院に入院してたから。M地区のメンバーはA病院か。A病院に入院していた人が多いかな。T地区の仲間もそうだし。市内のメンバーはほとんどA病院に入院した経験者じゃないかな。入院中に看護師さんから、懇々と説得されて、渋々来たっていう…（笑）。

—A病院は他の自助会を推してるんですよね？ 少なくとも院長先生は。

ロン
昔はね。今は、別の病院に買収されて院長でなくなって、権限も無くなったのね。だから、A病院にメッセージ入れるようになったの。院長先生に力なくなったから。

—メッセージを始めた頃の苦労話をお聞かせください。

ロン
いつ頃のメッセージだろ…まず、何人行くか確保するのが大変だった。多すぎても少なすぎて困るし。そういう時、間違いなく来てくれたのが仙台のAAメンバーの二人だった。平成十二年から続いたI病院の時代にLとMが来てくれていた。

—二人は山形と交流があったから、仙台から来ていたのですか？

ロン
自分のプログラムとして来ていたんだ。Lなんか、グループ間のスポンサーシップだって言って、山形グループのこと色々助けてくれた。グループ始まった頃からずっとそういう関係

だった。

—ロンさんがメッセージに託す熱い想いを教えてください！

ロン

私みたいなどん底まで落ちた人間が止められたんだから、どんなとこまで落ちたって、止める気があつてミーティングに通つていたら止められるって。そういう気持ちはいつも持つてやつている。

ただね、そういう気持ちは空回りする時があるので、気を付けないとなーと思う。努めてメッセージでは感情を入れないよう自分のことを淡々と話す。これが一番大事なんだなーって。最初の頃は感情を込めて熱く熱弁を奮つていたんだけど、それじゃあ駄目なんだなあって。

—どうして駄目なんですか？

ロン

ん？駄目って言うか、やっぱり相手に与える印象っていうかなー。相手がどう受け止めるかの問題だと思うんだど、自分は淡々としゃべつた方が良かったんだなと思つて。普通にしゃべつたつて、熱くしゃべつたつてあんまり変わつていない気がするんだけど。

だから、AAのミーティングそのものが感情込めないで淡々としゃべれつて言われてるでしよう。それと同じなんだ。

—そうなんです。：初めて聞いた（苦笑）。

ロン

そういう風に言われていると思うけど。私は言われた。そんなこと言つたつてね、ある程度、感情は入るんだけど（笑）。

—次に、メッセージを通じたAAの友人とのエピソードを教えてください。

ロン

メッセージを通じて直接うちのグループに繋がった人…何て言ったっけ、あいつ…N！N！あいつが一番印象深い。

メッセージをした三日後にミーティングに姿を現して、「俺が求めていたのは、これなんだよ！」って酒を止め出した。足を使う人でね、しょっちゅう仙台に行ってたんだけど、一年後には仙台に移住して。仙台に五年位いて、東京に行ったのかな。鬱がひどかったから、薬飲んで死にたいって…それで亡くなったんだけど。

あん時くらいだね、AAのメッセージで、こんなに簡単に繋がる人がいるのかよって思ったのは。初めてだった、あんなにポンポンと反応が早かったのは。あとは、メッセージ運んだから繋がったっていう人は…いるんだろうけど、覚えてない。

メッセージ行っても、患者さんが一人とか二人とか三人とか、そういうメッセージが、ずーつと続いていたから。たしかに来た人もいたんだけど…思い出せません。繋がったけど死んじゃったのも二人いたしな！。

—Oさんは？

ロン

Oさんは、メッセージでなくて、院長が自分の車でミーティング会場に連れてきたんだ。自分の車で連れて来て、タクシー券預けて、「これで帰れ」って。あーんな良い医者いないよ。

—詳しく教えてください。

ロン

私が入っていた頃のK病院の院長は、すごく患者思いで、Oさんみたいに一週間も経たないうちに再入院してくる人をすごく心配して、私が酒止めてたから、「あの人の所に行きなさい」って、「止まるかもしれないから」って。で、自分の車で送ってずっと通い詰めたんだ。

Oさん、三カ月間くらいずっと一言もしゃべんなかったんだけど、あれは印象的だったね。ど

うせしやべんないんだろうと思って、Oさんを外そうとしたら、Pが、「Oさんいるよ」って言うから、「じゃあ何か言ったら」って当てたら、止まらなくなっただけで三十分くらい話して（笑）。その時は入院中だから。一年近く入院してたんじゃないのかな、それから退院してAAに繋がったのかな、彼女は。

AAの本当の初期の頃だね。私と、Oさんと、Pと。平成七年のラウンドアップで、Pと出会ったんだから。して、まだOが生きていたから。あと、死んだQと：低血糖昏睡で一週間後に発見されたんだ。あの頃はバタバタと死んでいった時代だから。ブラックアウトして家の中で、どっかにぶつかって死んでたっけとかよ。初期の頃だと、十八歳の女子が焼身自殺したとか：恐ろしい時代だったけどね。

—怖いですね。それが本質なんですネ…
ロン

本当、恐ろしい時代だった：あんまり思い出したくない。どうやって死んだかってばかり。

—では、質問を変えます。現在、昼間のミーティングを多数開催されていますが、昼間のミーティングを始めて、グループの様子は変わりましたか？

ロン

昼に繋がった人は、昼しか来ない。やっぱり昼は女性が多いから、昼のメンバーと夜のメンバーがはつきり分かれている。でも今は、両方参加しているメンバーもいる。それでやっと繋いでいるっていう感じで。

両方参加しているメンバー、結構いるんだけど。いずれは分かれて行くのかなあという気がしますけど、今のところは「一緒だ！」って、「分かれたくない」って、皆頑張っているから。

—その一体性、良いですね。先ほどからお話に出ているラウンドアップについて伺ってよろしいでしょうか？ たしか、平成二十三年、震災の年ですよ？

ロン

一回目が平成十二年。二回目が平成二十三年、震災の年。

—というのも、先ほど、山形グループの二回目の節目が平成二十三年と伺ったので…。

ロン

あの頃だね、ちょうど。ラウンドアップも節目になっているのかもしれないね。宮城県が主催で山形でやったのが平成十年だった。飯田温泉。蔵王のふもと。

—何人位集まりましたか？

ロン

結構集まったよね。旅館一つ貸し切って。「泊まりじゃない人は夜は早めに帰って下さい」って言われて大変だったんだ(笑)。二泊三日で、私なんか泊まらないで通おうと思ったら、「お帰りになる人は早めに帰って下さい」って言われて、交渉したら次の日はちやーんと残れるようになったけどな。

—宮城の仲間と山形の仲間と一緒にやったのですか？

ロン

まあ一緒だけど、こっちは訳わかんないから、教えてもらいながらやっていたんじゃないかな。Oさんが入院中に参加していた記憶があるんだよな。

—その後、平成十二年に山形でラウンドアップですか？

ロン

山形グループ主催の第一回ラウンドアップ。

—それって、山形でやりたいという声が上がって…

ロン

逆！逆！！逆！！！！

宮城のラウンドアップで、次は山形って押し付けられて帰って来たのね（笑）。仲間が、「どうしましょう…」って言うから、「引き受けてきたんだから…」ってね。そして、ラウンドアップ実行委員会をR教会でやったんだけど、宮城の仲間がいつつも沢山来てくれたのね。その中の一人が、R、亡くなったS、T、U、西仙台のV…いっぱい来てたよね。

山形はあの時、実際動けるのは…四〜五人だったかな。

ラウンドアップ当日の朝、入院中の仲間と病院前で待ち合わせして、荷物を私の家から積み込んで二人で会場まで行った覚えがあるんだ。山形ラウンドアップの会場、誰もいなくてよ、あれは厳しかったなあ。

で、次々集まって来たんだけど。宮城の仲間が次々と来て、「俺受付〜」「俺は会場準備〜」って、手際良いんだー。あれよあれよという間にやってくれて、こういうものなんだなあって感心した。あの時、私は実行委員長だったから、ピリピリとして…全部任してオツケーだったからね。宮城の仲間と郡山の仲間がテキパキとやってくれたからね。経験がないから、一回でも経験していると違うんだけど、何をどうやってやれば良いか分からない…安比の時は無我夢中だったしね、いわきの時も…。いずれも自分でやるとなると大変なんだよね。場所決めから始まって。

—その後の平成二十三年のラウンドアップはどうでしたか？

ロン

あれは順番だよな。あの年、次の日の芋煮会は余計だったなって（笑）。もう、疲れて疲れで…十時過ぎからか…もうへトへトで。反省会聞いたから、帰るって家に帰った覚えがある（笑）。家に帰ってバタツと倒れて…誰かスリップするんじゃないかと思っていたけど、誰もス

リップしなかった。

—あれはラウンドアップの一環として芋煮会をされたんですよね？

ロン

あん時も、まだ一人立ちしてないような感じだったからね。メンバーはかなりいたんだよね、あの頃ね。この会場で実行委員会かなりしてた。

—今のメンバーは皆さんいらしたんですね。

ロン

ほとんど残ってる。山形の特徴は、年数経っても居なくならないってところから。年数経っても、ほとんど抜けていかない、どういう訳か。田舎だからだと思うんだけどね。忘れかけた頃に声かけるっていう…。

あと、イベント三つあるというのも丁度良いのかもしれない。春のOSM、秋の芋煮会、冬のクリスマス：平成九年からずーっとやってるからね。（平成二十三年の）ラウンドアップの年の芋煮だけ、やめたか。あん時：こじんまりとひっそりとはしたんだよ、希望募って十月の初めに。

イベントあるっていうのは、メンバーが集まるきっかけになるからね。それぞれ、こう、想いを持っていてから。芋煮のときは俺がこんにゃく煮るんだとか、材木持ってくるのは俺の役割だとか、そういう意味で、そういうのがあったから繋がってるのかもしれないよね。

—AAとの出会いは、ロンさんのその後の人生に何をもたらしましたか？

ロン

AAに出会って、こう…：自分が変えられたって思いがある。こんな自分でも生きていていいんだっていう感じ、それは強く思ったね。こんな俺でも人の役に立つんだって。月並みな言い方だけど。人から信頼されるっていうのは、こんなに自分を変えられるもんなのかなあって、そうい

う思いはしてるね。頼られ過ぎず、距離感を持った、適度な付き合いっての？　うちのグループの特徴だから。グダグダしないって。したい人もいるんだけど。

ミーティングやイベント以外でほとんど付き合いが無いっていうのは、都会ではそうなのかもしれないけど。お友達になって付き合うっていうのもあるんだろうけど、山形グループは、あんまりないね。初期の頃のメンバーがそうだったから。私とか、Pとか。ミーティングとそれ以外は一切没交渉って。交友関係を築くのが嫌だし面倒だからって、そういうのもあるんだけどね。

これからずっとAAに繋がっていたって思いはあるけど、あとは若い人に任せる時代だ。いつまでも年寄りの出る幕では無いと思うよ。何かあったら手助けはするけど。平均寿命まで、あと十年ちよつとだからね…。

—今後の山形グループの展望をお聞かせください。

ロン

山形の他の所にグループを作りたいて思いが凄く強いんだよね。そのためにも山形のグループを大きくしていくって、力あるグループにしていく必要はあるなど。他にもミーティングがあるけど、本当に細々としていて、いつ潰れるか分からない状態だから。その中で山形だけ、こんなに大きくなってやっていて良いんだろうかと思うんだけど、そんなこと言ったって、自分は、足が無いから何ともしようがないんだけど。これは、次の世代の仲間がやってくれることなのかなと思う…。

なかなか、週四回ミーティングあると他の所に行く時間的余裕が無くなってくるっていうか。酒田にもいききたいんだけど、行くと一日がかりなのね。

—ロンさんが理解しているAAの一体性とは、どのようなものでしょうか？

ロン

えー。一番苦手な質問だな、一体性ってのは。簡単に言うと、ステップを使って飲まない生き方を続けていくんだけど…何ていうかね、いつの間にか忘れてしまうっていうか。アルコール

ルの問題でおかしくなった人って個性の強い人ばかりだから、色んな方向にはじけ飛んでいくのね。こう、自分は山形のメンバーなんだよって、一緒にプログラムやるメンバーとして一緒に行動していかないと駄目なんだよって思うけど、強いつていうか何というか。

ある意味で良いことなんだろうけど。まとまりが強いつていうか：お互いがお互いを思いやる気持ちも凄く強いんだよ、口には出さないけど。あの人どうしたのかしらって、口には出さないけど。：うまく言えない：一体性、正直、分かんないな。

—ありがとうございます。では最後に。まだ苦しんでいる仲間にもメッセージをどうぞ！

ロン

メッセージでいつも言うんだけど、飲んで死ぬのも自由だし、酒を止めて普通に生きるのも自由だし。ただ、いっぺん、酒のない生き方を経験してみたいって、ミーティング通って。そういう思いはある。なんだかんと言ったって、この病気は飲み続けたら死ぬんだから！ 死にたくないって思ったら、自助グループに繋がって、試してみたいって。必ず道はある。その気があれば。

希望を捨てないでっていうのは、よく言う。止めようと思ったら、必ず道は開けてくる。止めようと思わないと、何も始まらない。

—以上でAA東北見聞録のインタビューを終了させていただきます。ありがとうございました。



あとがき

東北の地にA Aの種子が運ばれ、根付き、花を咲かせ、実を結び、幾つもの季節を越え、色とりどりの花を咲かせ続けています。今当たり前のように繰り返されている、東北A Aの日々の始まりがここに紡がれています。一人のアルコホーリック、一読者、ミーティングリストの利用者だった私が、東北見聞録、そしてこの小冊子の編集に関わらせていただきました。紙上で分かちあい、述べ伝えを一冊の本にして誰かの手に届けるという役割を通して、あらためて、始めること、続けることの大切さを感じさせていただきました。この「始まり、今尚続いている物語」が、関係者の方々、ミーティング場を開き続けている仲間、ミーティングに通い続けている仲間、そして、これからやって来る仲間たちの手に届くことを心から願っています。この終わらない物語の一編に関わらせていただいたことに感謝しています。

(A)

約二年前に仲間より東北見聞録に関わってみないかと声をかけて頂き、以来、ささやかながら毎月お手伝いをさせて貰っていました。そして今回、この小冊子の校正作業にも一部参加させて頂き、これらの活動を通して自分がA Aメンバーであり、A Aの一体性の一部であることを再確認させて頂きました。このような機会を頂いたことに感謝すると共に、たくさんの仲間や関係者の方が、この貴重な経験と力と希望の詰まった小冊子を通して、何かしらのメッセージを受け取ってくれたらとても嬉しく思います。今後も私の飲みやすい生き方の中で起こる様々な出来事を、一つ一つゆつくりと噛みしめながら、自分の歩幅で歩んで行きたいと思っています。

(T)

きっかけは数年前、自分のホームグループの、イベントチラシ、でした。頼むのなら自分もお手伝いを、と、発送作業に行きました。そこでこの、小冊子、の産みの親、東北見聞録、がつくられていて・・・。かつて、手が震えて煙草もロクに喫えなかった仲間や、いつもミーティングで会う仲間が、コツコツ、コツコツと、手際よくA Aのことをやっついていて、再飲酒からやり直していた自分を笑って受け入れてくれました。この小冊子には、各編の貴重な個人の物語、ベースを作った仲間の苦労、関わった皆の想い、そして、これからこの冊子に出会う仲間・全部ひっくるめてカッコつけて言えば、愛、が詰まっているんだと思います。

(M)

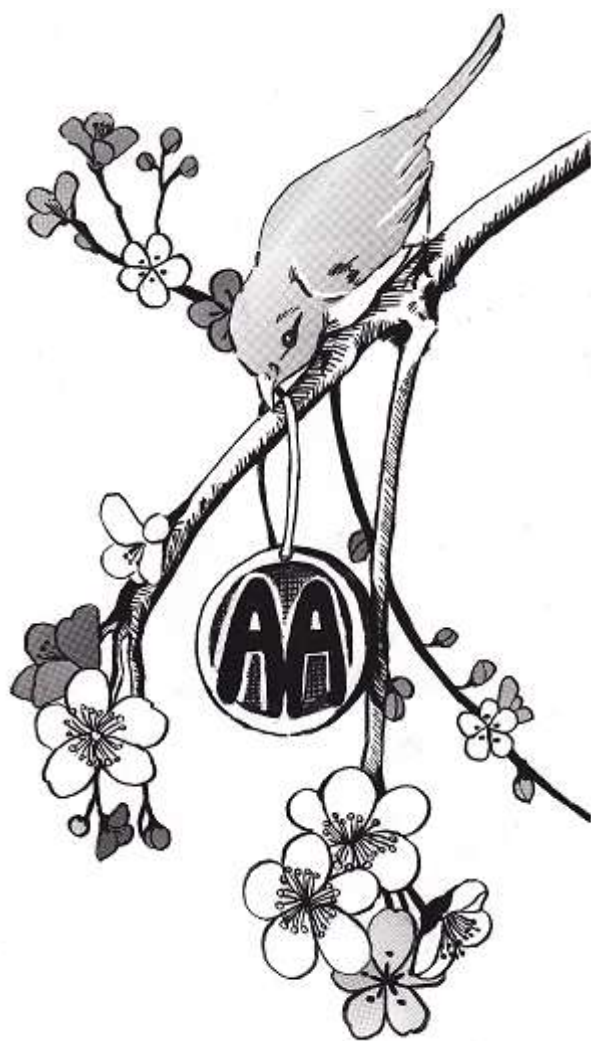
1965年AA 30周年
インターナショナルコンベンションの宣言

私の責任

誰かが、どこかで助けを求めたら
必ずそこにAAの（愛の）手が
あるようにしたい。それは私の責任だ。

I am responsible

When anyone, anywhere,
Reaches out for help,
I want the hand of A.A.
Always to be there.
And for that: I am responsible.



AAが東北に来た頃のあれこれ

- 東北AA草創期メンバーによる魂の記憶 - 宮城編 双葉編 山形編

発行日 2016年08月01日
編集 AA東北見聞録編集委員会
発行 AA東北セントラルオフィス
〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-7-12 紫苑荘2階
Tel/Fax : 022-276-5210
電子メール : aa.tco20@gmail.com
ホームページ : <http://tco.aatohoku.info/>

© copyright AA東北セントラルオフィス 2016 Printed in Japan

AAの12のステップ

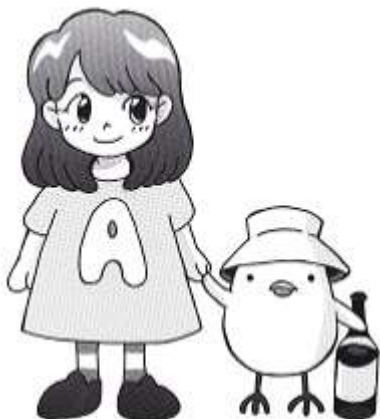
1. 私たちはアルコールに対し無力であり、思い通りに生きていけなくなっていたことを認めた。
2. 自分を越えた大きな力が、私たちを健康な心に戻してくれると信じるようになった。
3. 私たちの意志と生き方を、**自分なりに理解した**神の配慮にゆだねる決心をした。
4. 恐れずに、徹底して、自分自身の棚卸しを行ない、それを表に作った。
5. 神に対し、自分に対し、そしてもう一人の人に対して、自分の過ちの本質をありのままに認めた。
6. こうした性格上の欠点全部を、神に取り除いてもらう準備がすべて整った。
7. 私たちの短所を取り除いて下さいと、謙虚に神に求めた。
8. 私たちが傷つけたすべての人の表を作り、その人たち全員に進んで埋め合わせをしようとする気持ちになった。
9. その人たちやほかの人を傷つけない限り、機会あるたびに、その人たちに直接埋め合わせをした。
10. 自分自身の棚卸しを続け、間違ったときは直ちにそれを認めた。
11. 祈りと黙想を通して、**自分なりに理解した**神との意識的な触れ合いを深め、神の意志を知ることと、それを実践する力だけを求めた。
12. これらのステップを経た結果、私たちは霊的に目覚め、このメッセージをアルコールに伝え、そして私たちのすべてのことにこの原理を実行しようと努力した。

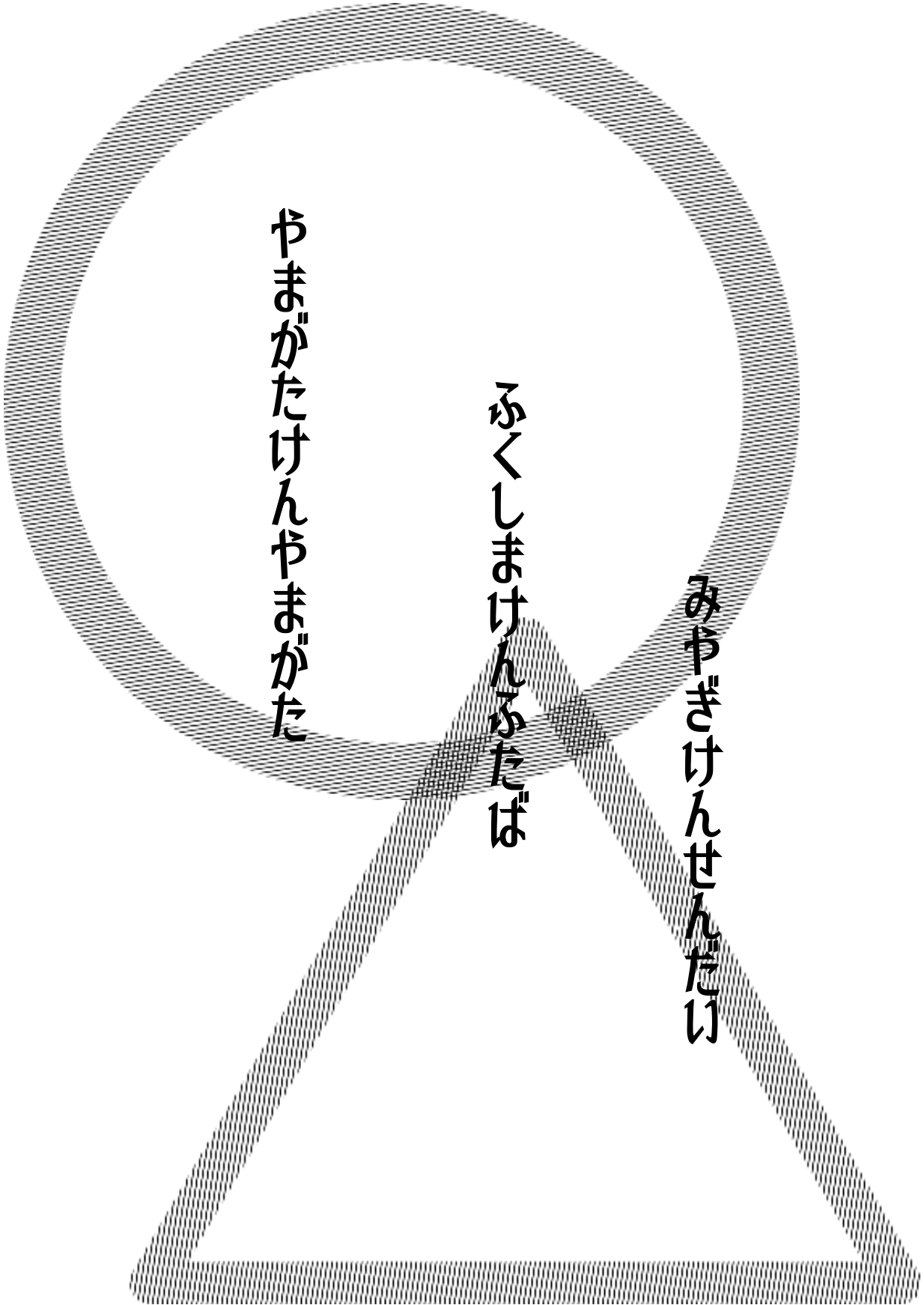
(A. A. ワールドサービス社の許可のもとに再録)

AAの12の伝統

1. 優先されなければならないのは、全体の福利である。個人の回復はAAの一体性にかかっている。
2. 私たちのグループの目的のための最高の権威はただ一つ、グループの良心のなかに自分を現される、愛の神である。私たちのリーダーは奉仕を任されたしもべであって、支配はしない。
3. AAのメンバーになるために必要なことはただ一つ、飲酒をやめたいという願っだけである。
4. 各グループの主体性は、他のグループまたはAA全体に影響を及ぼす事柄を除いて、尊重されるべきである。
5. 各グループの本来の目的はただ一つ、いま苦しんでいるアルコールクにメッセージを運ぶことである。
6. AAグループはどのような関連施設や外部の事業にも、その活動を支持したり、資金を提供したり、AAの名前を貸したりすべきではない。金銭や財産、名声によって、私たちがAAの本来の目的から外れてしまわないようにするためである。
7. すべてのAAグループは、外部からの寄付を辞退して、完全に自立すべきである。
8. アルコホーリクス・アノニマスは、あくまでも職業化されずアマチュアでなければならない。ただ、サービスセンターのようなところでは、専従の職員を雇うことができる。
9. AAそのものは決して組織化されるべきではない。だがグループやメンバーに対して直接責任を担うサービス機関や委員会を設けることはできる。
10. アルコホーリクス・アノニマスは、外部の問題に意見を持たない。したがって、AAの名前は決して公の論争では引き合いに出されない。
11. 私たちの広報活動は、宣伝よりもひきつける魅力に基づくものであり、活字、電波、映像の分野では、私たちはつねに個人名を伏せる必要がある。
12. 無名であることは、私たちの伝統全体の霊的な基礎である。それは各個人よりも原理を優先すべきことを、つねに私たちに思い起こさせるものである。

(A. A. ワールドサービス社の許可のもとに再録)





やまがたけんやまがた

ふくしまけんふたば

みやぎけんせんだい